

貝類増殖場造成事業の効果調査結果について

漁場環境研究部 漁場改善グループ

冬季の波浪によるアサリ資源の減耗対策として、浅海域のアサリ漁場に碎石を投入し、地盤を安定させる貝類増殖場造成事業が実施されています。碎石の投入によるアサリ資源への効果を把握するため、一色地区(2022年造成、1.65ha)で2023年5月9日に調査を実施しました。

調査点は造成された貝類増殖場の区域内で4点(造成区)、貝類増殖場の区域外で1点(対照区)を設定しました。生息密度は、25cm×25cmの枠を用いて、その内部から10cmの深さまで砂や碎石を採取したものを目開き1mmのふるいにかけて、ふるいに残ったアサリを計数することで求めました。

調査結果を図1に示しました。造成区4点の平均と、対照区を比較しています。対照区ではアサリの生息が確認されませんでした。造成区では平均で1,224個体/m²(殻長:6.1~34.0mm)が確認され、碎石投入の効果は高いと考えられます。今後も秋季と冬季に調査を予定しており、引き続き造成によるアサリ稚貝着底促進の効果や生残率向上の効果を検証していきます。

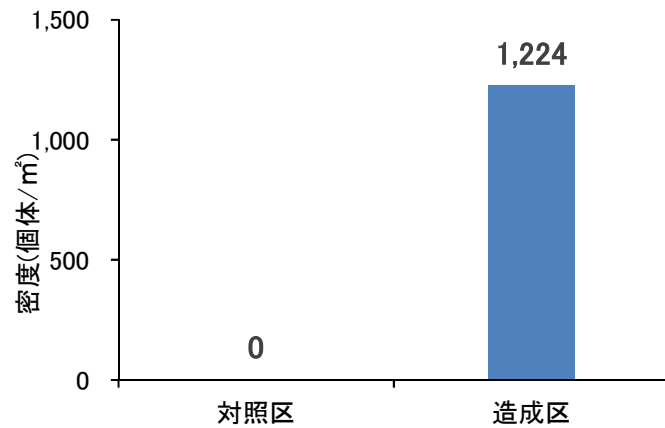


図1 一色地区におけるアサリの生息密度



図2 造成区全景



図3 調査の様子

海とお魚漁業体験教室を開催します

企画情報部 企画普及グループ

水産試験場では、水産業に対する関心と理解を高めるとともに、漁業の担い手を確保することを目的として、県内漁業地区等に在住の中学生を対象に下記のとおり「海とお魚漁業体験教室」を開催します。

この教室では、実習や講義を通して、愛知県の水産業について楽しみながら学んでいただきます。詳細は、ウェブページ(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/summer.html>)をご覧ください。

記

- 1 日時: 令和5年8月8日(火)10:15~15:30
- 2 場所: 水産試験場 本場(蒲郡市三谷町若宮97)
- 3 内容: のり漉(す)き体験、ロープ結び体験、魚の耳石とり体験、VR(ヴァーチャルリアリティ)ゴーグルによる底びき網漁業体験など
- 4 対象及び定員: 県内在住の中学生 最大定員 20名
- 5 申込方法: 上記ウェブページより申込用紙をダウンロードし、必要事項を記載のうえ、FAX またはメールで水産試験場までお申込み下さい。(期限: 7月25日) ※申込多数の場合は高学年及び先着優先
- 6 申込先: 水産試験場企画普及グループ
(FAX: 0533-67-2664、メール: suisanshiken@pref.aichi.lg.jp)



令和4年度開催の様子

知事の名刺を使って金魚をPRしています

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

愛知県では2011年度から毎年、知事の名刺を使って県産農林水産物をPRしています(図4)。今年度の6、7月は、夏の風物詩である「金魚」を取り上げており、6月には弥富金魚漁業協同組合の伊藤組合長が知事を訪問し、名刺に印刷されたリュウキンをはじめ、2020年に水試が開発したサクラチヨウテンガン等の金魚を贈呈しました(図5)。贈呈された金魚は7月31日まで愛知県庁本庁舎1階のエレベーターホール脇に展示されていますので、お近くにお越しの際にご覧ください(図6)。なお、水試HPでも金魚がご覧いただけます。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/0000012236.html>)



図4 知事名刺



図5 組合長から知事へ金魚の贈呈



図6 展示されている金魚

